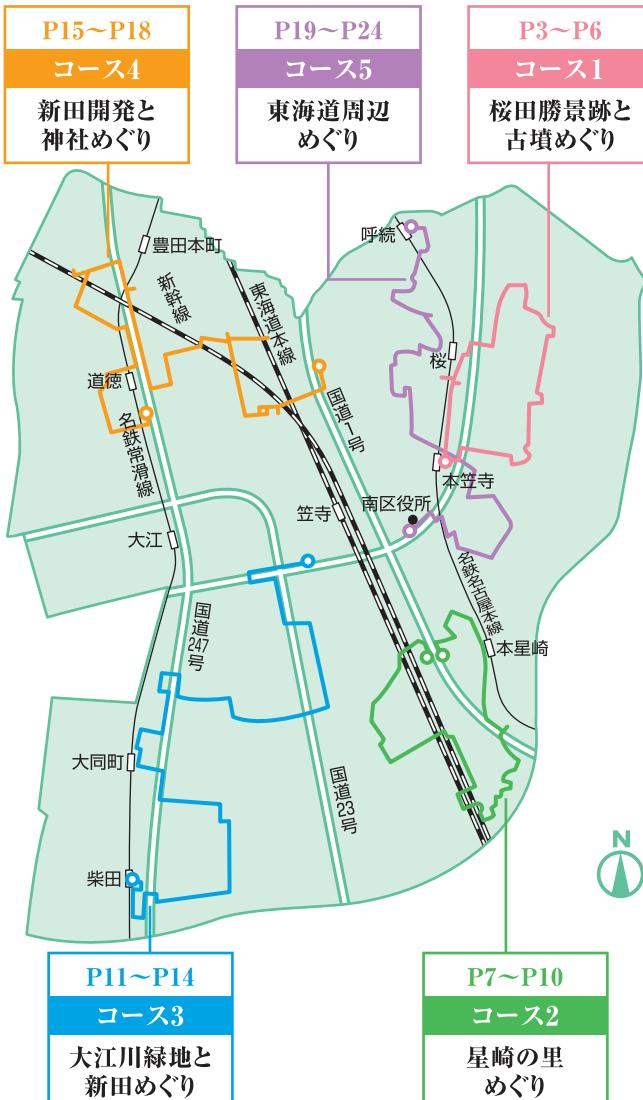


# 訪ねてみよう南区の歴史

## 南区史跡散策路コースガイド



市営バスの各バス停の時刻表は  
左のリンクからご覧ください。

時刻表・経路・乗り場などのお問い合わせ先は

市バス・地下鉄テレホンセンター

TEL052-522-0111

営業時間8時～19時(年中無休)

<凡例> バス停

地下鉄駅の丸数字は出入口番号を表す

### コース1 桜田勝景跡と古墳めぐり

今なお、すばらしい眺めの見晴台を経て、北の桜田勝景跡へと進む。桜八幡社の境内に立って、古代の年魚市渴や万葉人に想いをはせる。……「櫻田部鶴鳴渡年魚市方鹽干ニ家良之鶴鳴渡」……さらに北へ進むと古墳に至る。美しい自然と歴史に恵まれた当地を散策する。

### コース2 星崎の里めぐり

星宮社から坂道を登った所に星崎城跡がある。昔日の面影を残す知多郡道をたどると石神社、百觀音へと続く。永井荷風・星渚のゆかりの地は、古風な家々の並ぶ里なかにある。この道は、かつての牛毛、荒井村周辺を中心とする緑道・郡道で、四季折々の風情が楽しめる。

### コース3 大江川緑地と新田めぐり

天白川のあたり、北柴田新田の稻荷神社を東へ進むと須佐之男社に着く。境内の3分の1をおおうイチヨウの大木が迎えてくれる。せせらぎ水路を西へ進み、愛と力の筏像、神松地蔵堂を経て大江川緑地へ。ここ芝生で休憩するもよし、散歩道を散策するのもいいだろう。新田の歴史をさぐり、人々の営みをしのぶ道である。

### コース4 新田開発と神社めぐり

昔、図書館のあたりは、塩浜であった。ここから西へ山崎川のほとりで青峯山観音を拝顔し、忠治橋を渡って新田村へと進む。「黒鍬」と呼ばれた人々による手造りの堤防は、幾たびと襲う台風や高潮で決壊した。村人は豊穣と安全を願い堤ぎわに神々を祀った。簡素な社にたたずみ開発の頃を思いおこす。

### コース5 東海道周辺めぐり

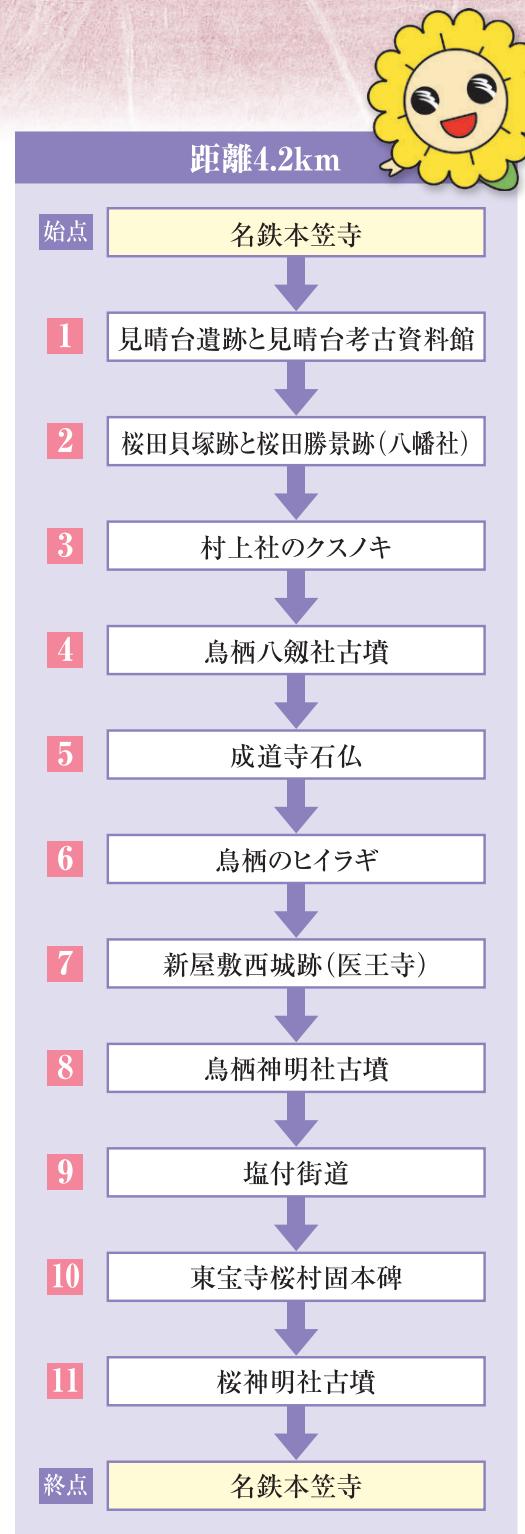
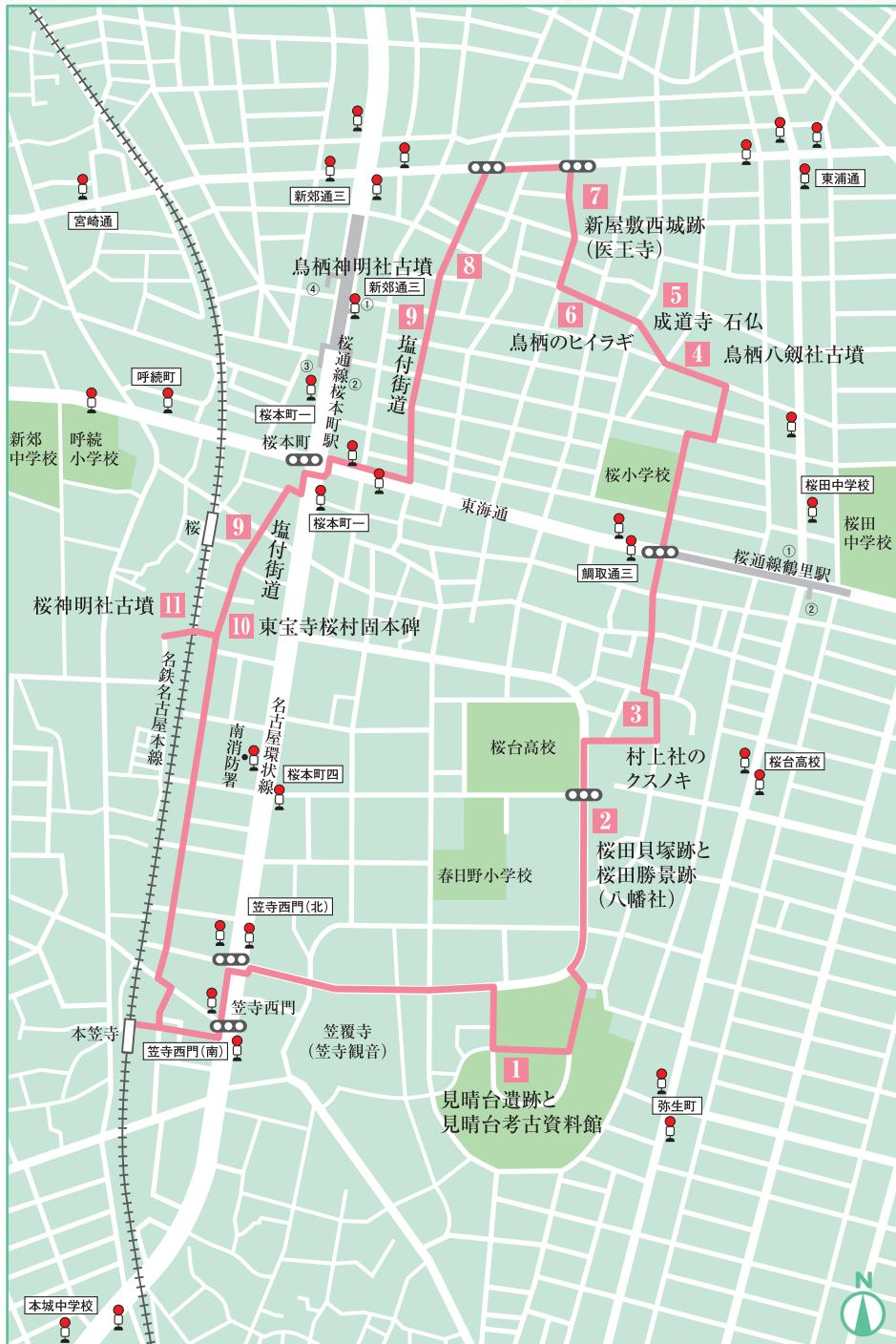
市内唯一の一里塚を残して、南北に伸びる東海道。雨ざらしの観音様に笠をかぶせた娘・玉照姫、その故事にちなむ笠寺観音から桃山様式を今に伝える富部神社へと進む。古道・鎌倉街道、行き交う白帆を望んだ年魚市渴勝景跡、そして戦国の城跡へ時代の流れを追ってめぐる。

## 南区史跡散策路

平成16年3月発行  
令和6年10月第8版

発行 名古屋市南区役所・名古屋市教育委員会  
監修 南歴遊会  
照会先 名古屋市南区役所地域力推進課  
TEL823-9326 FAX811-6360  
<https://www.city.nagoya.jp/minami/>

コース  
1 桜田勝景跡と古墳めぐり



コース  
1

# 散策ガイド

## ① 見晴台遺跡と見晴台考古資料館

見晴台遺跡は笠寺台地南端に位置し、面積約3ha高さ約15mの平坦な舌状台地上にある。遺跡からは、約2万年前の旧石器時代から中世までの遺物や遺構が発掘されている。なかでも堅穴住居跡や環濠、また甕や壺、高坏などの弥生土器が多く出土し、質、量ともすぐれた遺跡である。



見晴台考古資料館は、昭和54年(1979)10月に笠寺公園の中に建設された。弥生時代の集落である見晴台遺跡の調査結果を中心に紹介している。館内に展示されている資料の多くは、毎年夏に中学生以上の市民参加で行われた発掘調査で、市民が掘り出したものである。また、「住居跡観察舎」には堅穴住居が復元されている。



## ② 桜田貝塚跡と桜田勝景跡(八幡社)

八幡社(創建不詳)の前にあった桜田貝塚は、弥生後期に掘られた濠の中に形成されたもので、貝のほか魚骨、魚形土器などが出土し弥生時代の漁の様子がわかる。出土品の「魚形土器」は全国的に珍しいもので市指定文化財に指定されている。また、このあたりは南東に傾斜した高台で、勝景桜田を眺望できた最適の場所であった。境内には、万葉歌碑のほか、県無形民俗文化財に指定されている「桜棒の手」の保存記念碑がある。

## ③ 村上社のクスノキ

村上社の境内には、幹回り10.8m、樹高20mにおよぶ巨大なクスノキがある。樹齢千年余といわれ、昭和62年(1987)市の天然記念物に指定された。この樹は古鳴海と桜の地を結ぶ、船人の目印になっていたと伝えられる。また、『万葉集』高市連黒人の歌の碑が、建てられている。

## ④ 烏栖八劍社古墳

この古墳は、直径45m、高さ5m程の帆立貝式古墳である。社伝によると「和銅元年(708)新羅の僧道行が熱田神宮の草薙剣を盗み去ったとき、この事が帝に知れるのを恐れ、神剣を新しく作るよう鍛冶屋に命じた。そしてこの地で37日修祓の上、熱田神宮へ奉納した」といわれている。

## ⑤ 成道寺石仏

境内は鳥栖城跡と考えられ、この一角に城主成田公夫妻の墓碑と伝えられる石仏二体がある。その一体に「鳥住伝心淨本菴主」「永正十二年(1515)乙亥正月十二日」と刻まれ、紀年銘としては市内最古のものである。

## ⑥ 鳥栖のヒイラギ

樹齢300~350年。根回り2.8m、樹高6.5mの5本立てで、ヒイラギとしては稀有の古木である。縁起ものの木として親しまれている。

## ⑦ 新屋敷西城跡(医王寺)

医王寺は天正2年(1574)の創建といわれ、戦国時代新屋敷西城のあつた所である。城主は山口新太郎(一説には山口左馬允明長)で姉川合戦に参戦したといわれる。境内無縁仏の中に高さ32cmの地蔵坐像石仏があったが、平成になって本堂前に移された。城の規模は東西が173m、南北153m、西に堀があり、東と北は土塁に囲まれていたという。

## ⑧ 鳥栖神明社古墳

円墳で、古くから「大塚」とよばれ、この上に神明社が祀られているが、ほぼ完全な形を保っている。基盤上に黄褐色粘土を敷き、その上に黒色土をはさみ、さらに上部が砂と粘土まじりの熱田層の土で盛られている。

## ⑨ 塩付街道

星崎7カ村といわれた山崎・戸部・笠寺・本地・南野・荒井・牛毛の各村の塩浜(ほぼ現在のJR東海道本線沿い)では、塩の生産が盛んで「前浜塩(星崎の浜の塩)」としてよく知られていた。慶長13年(1608)頃、約100haの塩浜があったが、江戸後期には新田開発や瀬戸内海の塩におされ、戸部・笠寺・本地の3カ村で17haに減少した。各村の塩浜で生産された塩は一度、村の塩倉に集められ、富部神社あたりから桜(東宝寺西-鳥栖神明社西)-新屋敷-中根を経て遠く信州塩尻まで、馬の背に乗せられて送られた。この道を塩付街道といいう。

## ⑩ 東宝寺桜村固本碑

桜中村城の家老屋敷跡とも伝えられる東宝寺の境内に、『尾張徇行記』の著者樋口好古撰の石碑がある。碑には「桜村の土地が荒廃し、村民は生活に苦しんでいた。村役人の村瀬藤九郎がこの状況を訴えて十年間の年貢の軽減が許された。おかげで生活が豊かになり、村民が喜んだ」という意味の文が刻まれている。

## ⑪ 桜神明社古墳

この古墳は直径42m、高さ6mの円墳である。墳裾から埴輪片などが出土しており、5世紀前半の古墳と推定される。墳上の神明社の創建は不詳。文政7年(1824)作のお馬塔の馬具があり、10月の大祭に展示される。鯛取通1丁目付近にあった「熊野權現社」が大正5年(1916)に合祀され、その経緯について境内にある「熊野三社合祀の記」に刻まれている。



距離5.2km

- 始点 本星崎町バス停
- 1 星宮社
  - 2 善住寺
  - 3 星崎城跡
  - 4 石神社
  - 5 光照寺百観音
  - 6 鹿島稻荷社
  - 7 永井荷風追慕碑
  - 8 永井星渚出生地
  - 9 牛毛神社
  - 10 旧鳴尾学校舎
  - 11 嘸続地蔵
  - 12 嘸続神社
  - 13 福井八左衛門の供養塔
  - 14 大江川湊跡
- 終点 本星崎町バス停



コース  
2

# 散策ガイド

## 1 星宮社

創始は舒明天皇(629~641)の頃で、天津甕星神を祭神としている。星崎城築城のとき、この地に移したと伝えられる。かつては、星崎の岬の最南端であり、里人のともす常夜燈が灯台の役目を果たしたと伝えられている。境内社のうち、上・下知我麻神社は宮簣媛命の父・母を祭神とし、熱田神宮内の両社も、もとはここにあったものといわれる。また、ここには伊奈突智老翁を祀り、縁起によればこの地に塩づくりを教えた人であるといふ。

## 2 善住寺

慶安4年(1651)浄土宗に改宗、善住寺と改称し、建中寺の末寺となる。寄棟造棧瓦葺きの本堂と表門は、水袋新田や弥次衛新田を開発した本地村庄屋中村弥次右衛門が享保18年(1733)に再建したと伝えられる。境内には、古木の「愛染椿」や「桑子地蔵」などがある。

## 3 星崎城跡

この城の本丸は現在の笠寺小学校にあり、城全体の規模は、東西約167m、南北約105m余である。本丸、二の丸、三の丸、大手門は校門南一帯の住宅地にあたり、周りには堀もあって戦国時代末期に重要な役割を果たした。城主は織田、今川の勢力消長により次々と交代し、桶狭間合戦後、織田方の岡田直教が居城し、天正16年(1588)山口重政のときに伊勢国茂福(現在の四日市市)の城主に移封されたため、星崎城は廃城となった。

## 4 石神社

創建不詳。石を御神体とした神社で、歯痛・神経痛に靈験があるといわれ、お礼にシャモジを供えたことから「オシャモジ様」と呼ばれた。神社西側の道は、かつて知多郡道、知多街道とも言われ、笠寺方面と知多半島を結ぶ重要な道であった。

## 5 光照寺百觀音

創建は建保元年(1213)。慶安4年(1651)浄土宗に改宗、光照寺と改称し建中寺の末寺となった。寺伝では、尾張の有力な武士であった山田次郎重忠の創建という。寺東のお堂には数多くの石仏が並び「百觀音」と呼ばれ、知多郡道を往来する人の休憩所であったと伝えられる。

## 6 鹿島稻荷社

天白川の砂州が発達して出来たというこの地は、かつて鹿の島と呼ばれていた。別名「久太稻荷」とも呼ばれる。「狐の化身だった久太夫の妻がその正体を子どもに見られ、姿を消す際に恩返しにと一晩で田植えをし、家を出ていった。その年久太夫の田だけ豊かに実った」という民話が伝わっている。

## 7 永井荷風追慕碑

西来寺の境内には、荷風を慕って昭和50年(1975)に建立された堀口大学揮毫の碑がある。碑面には「人生の真相は、寂寞の底に沈んで初めて之を見るのであろう」と荷風のことばが刻まれている。

## 8 永井星渚出生地

西来寺と道路を隔てて南側に、永井星渚の屋敷跡がある。星渚は荷風の先祖で鳴尾永井氏の八代目である。徂来派の学にすぐれ、門下に伊藤両村などを出し、野にあって尾張の儒学者として活躍した。

## 9 牛毛神社

牛毛は、本地・南野・荒井とともに、天白川の砂州が発達し、その上にできた集落である。神社は堤防上にあり、創建は太閤検地(1582~95)より以前と推定される。祭神は須佐之男命。境内には、明和6年(1769)奉納の手洗鉢、庚申塚の碑やムクノキの大木がある。

## 10 旧鳴尾学校舎

明治4年(1871)廃藩置県のとき知多郡横須賀町(現在の東海市)に名古屋県の出張所として新築されたものである。その後、譲り受けで明治15年(1882)に第31番小学鳴尾学校の校舎にしたといわれる。特徴は、正方形の皿形の板を3枚重ねた玄関柱、網代式の玄関天井、ベランダ風の廊下など全体として洋風建築のデザインがみられる。

## 11 喚続地蔵

縁起によると「元和元年(1615)大坂落城の落武者新藤半兵衛が、石地蔵の靈験を試そうと、槍で突いたところ上下2つに割れ、半兵衛は血を吐いて落命した」といわれている。この場所は寺の西方にあり「血塚畠」とよばれ供養の碑が建っている。

## 12 喚続神社

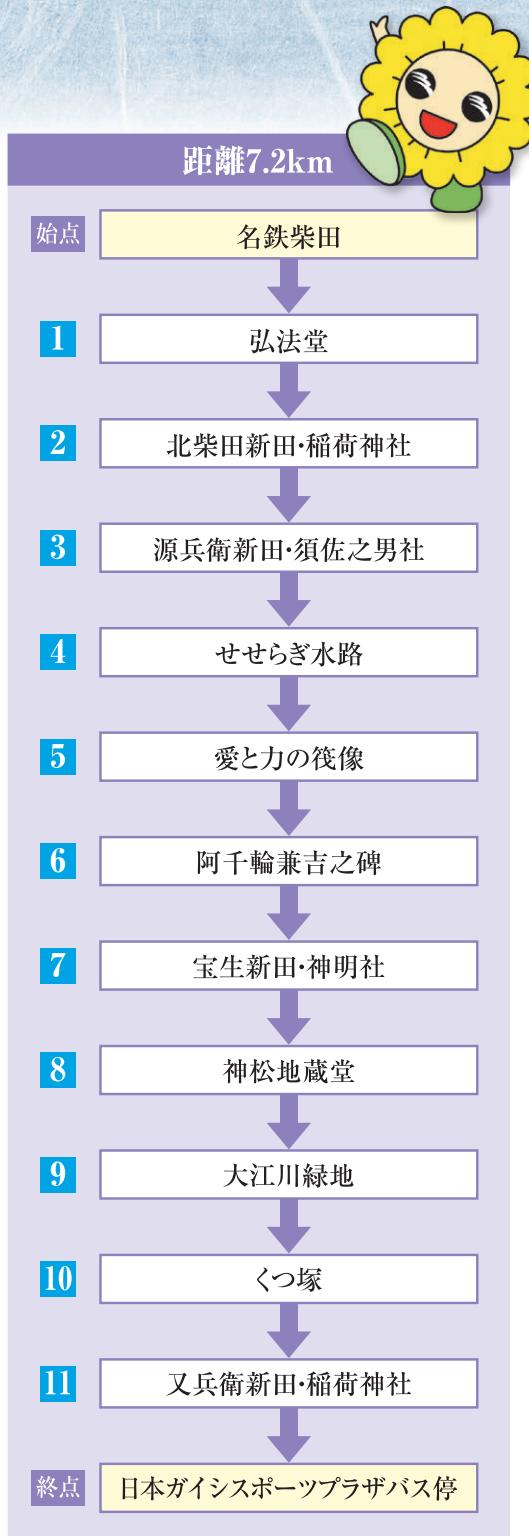
創建は大永3年(1523)。縁起によると「幾度か神社西の海岸堤防が決壊した。そこで伊勢神宮へ祈願して、1万回のお祓いをうけたところ、神徳があり堤防が完成した。そのため社殿は伊勢神宮へ向けて建築された」といわれている。社宝に寛永9年(1632)8月14日夜落下した日本で2番目に古い隕石がある(最古の隕石は平安時代(貞觀3年・861)に福岡県直方市に落下した「直方隕石」である)。また毎年10月の祭に出る大人形に3m余の巨大な布袋、福禄寿や猩猩がある。

## 13 福井八左衛門の供養塔

弘心寺の境内に、新田開発の遺徳をしのんで、大正3年(1914)に村人が建てた。南野村の庄屋福井八左衛門は江戸時代、瀬戸内海の製塩業に圧倒され、当地の塩の生産に見切りをつけ、田畠、塩屋を売却して資金を作り、宝曆7年(1757)八左衛門新田開発に挑んだが、完成に至らず地頭竹腰山城守に、新田築方証文と共に返還した。山城守は自普請で築立てたがこれも費用がかさみ開発できず、寛政3年(1791)に御小納戸(徳川家の直轄)の控となる。(『尾張徇行記』)なお、八左弘法堂(現弘心寺)は大正13年(1924)に建てられている。

## 14 大江川湊跡

「三ツ又」ともいわれ、寛文年間(1661~1673)には「万場の渡し」の応援や、津島祭りの車船として20艘の船が出ていたことが『尾張徇行記』に記されている。近郷の年貢米が藩の倉へ送られ、鳴海の酒荷も運搬された。また、三重県の多度方面との往来も伝えられており、にぎやかな湊であったと思われる。昭和55年(1980)に緑地帯に整備された。



コース  
3

# 散策ガイド

## 1 弘法堂

弘法大師を信仰する老女たちの女人講がお経をあげたり、世間話をした所でもある。特に3月21日の弘法大師の命日には、参詣者を接待した。弘法堂は区内各所に残っている。また、敷地内に伊勢湾台風殉難者慰靈像、三十三觀音や六地蔵がある。

## 2 北柴田新田・稻荷神社

北柴田新田は、天白川をはさんで南柴田新田とともに、宝暦6年(1756)名古屋・納屋町の柴田屋新兵衛が開発した新田である。なお、北柴田新田から天白川の底をとおして、南柴田新田へ用水を送っていた。この伏越しの樁材が、大正14年(1925)6月に完了した、柴田～名和村間の複線化工事のとき、天白川底から出てきたといわれる。稻荷神社は宝暦6年の創建である。

## 3 源兵衛新田・須佐之男社

源兵衛新田は、大高村の山口源兵衛が、堀川の運上権をもつ材木商犬山屋の神戸文左衛門の資金援助を得て、宝永3年(1706)完成させた。その時、須佐之男社を建て、記念にイチヨウを植えた。入植は23戸、107人だった。なお、本殿左に高さ約50cm、重さ約90kgの力石が立てられており、村人の手で「源兵衛新田 村方 二矢之口」と刻まれている。



## 4 せせらぎ水路

大同排水路は、むかし新田の排水路で丹後江と呼ばれた。昭和58年(1983)この排水路の改修整備が行われた。知多街道の東側850mの区間は、水深10～20cm位になるように水道水を循環させ、その中に飛び石を置き、ところどころ堰も設け、せせらぎとして生まれ変わった。この水路が丹後通と交わる所には「せせらぎ水路」の石碑がある。

## 5 愛と力の筏像

昭和34年(1959)の伊勢湾台風のとき、大同高等学校本館は二千余名の人々で泥海の避難場所となった。同校生徒は多くの人と一丸となって、手作りの筏で人命救助、物資の輸送、清掃、復興などに活躍した。この像は、純真な生徒の愛と力の姿を永く伝えてその行いを顕彰し、後進の励みとするシンボルである。また、この像には当時の浸水位が刻まれている。



## 6 阿千輪兼吉之碑

名古屋周辺及び知多半島の海苔の養殖は、明治40年(1907)笠寺村阿千輪兼吉が創業、その後南区の産業の一つとなり、「あゆち海苔」「愛知海苔」として有名になった。現在、大江新田開発時(文化元年・1804)の創建といわれる神明社(大同)の境内に、「笠寺漁業組合第一代理事長阿千輪兼吉之碑」が建っている。

## 7 宝生新田・神明社

宝生新田は寛政5年(1793)に開発されたが開発者は不詳である。天保12年(1841)に作製された新田図によると、用水路によって南北に3分されて、北から笠寺村分、本地村分、南野村分となっている。神明社は安政年間(1854～60)の創建と伝えられている。

## 8 神松地蔵堂

神松地蔵菩薩は現在、神松町1丁目の道路ぎわに祀られ、地元の人々に慕われて年2回の供養が行われている。江戸時代の水袋新田絵図の大江通南西角にある「水袋新田鎮守社加霊松神社・星宮神主神事」の文字の下に、一本の大松と祠が描かれている。この祠の中に神松地蔵菩薩が安置されていたが、昭和18年(1943)の大江川改修工事で現在地へ移されている。

## 9 大江川緑地

大江川は、かつて水がきれいであったころ、地域の人々の遊び場であった。また運河状で船の航行や船溜場として重要な役割をはたしていた。しかしその後、工場や家庭の排水が流れ込み汚れた川に変わった。

昭和55年(1980)に約1.8kmを埋立て、池、人工の川、芝生広場、サイクリングコース等を配置した。緑地が整備され憩いの場として親しまれている。

## 10 くつ塚(伊勢湾台風殉難者慰靈之碑)

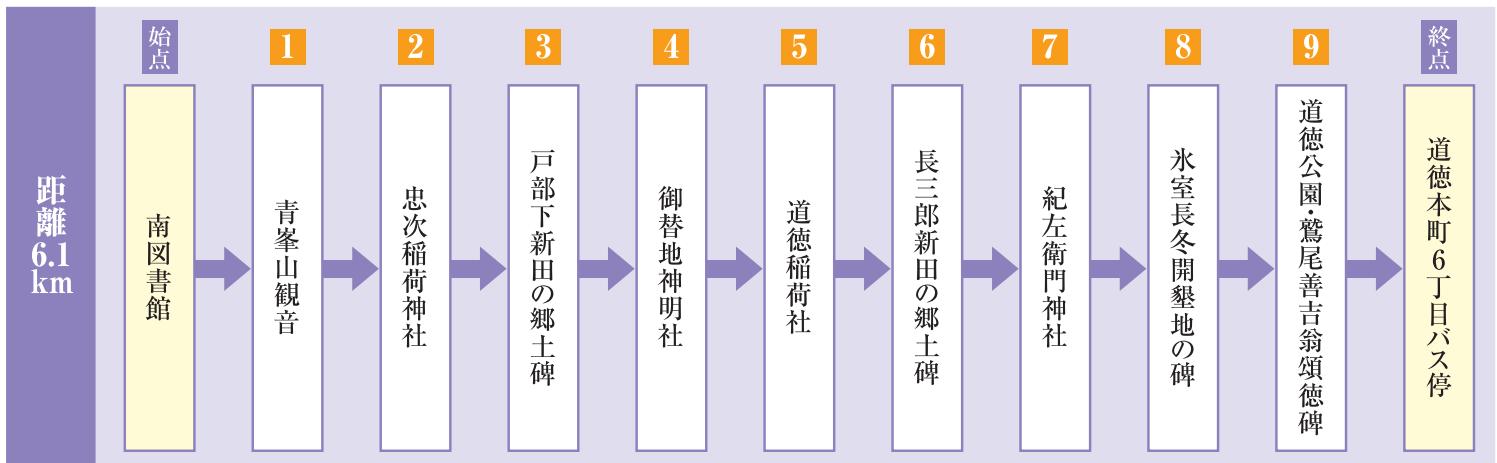
昭和34年(1959)9月26日の伊勢湾台風は区内で1,417人の多数の死者を出す大水害であった。2週間後に水が引くと、このあたりのアシの根元や田んぼに取り残された靴が集められ、花と線香が絶えなかった。以来、「くつ塚」と呼ばれ、昭和35年(1960)に「伊勢湾台風殉難者慰靈之碑」が建てられた。



## 11 又兵衛新田・稻荷神社

又兵衛新田は正徳5年(1715)加藤又兵衛と笠寺村の人々により開発された。当時、天白川右岸の桜村と、笠寺村の水田は毎年水害を受けた。そのため排水路を笠寺村の海面先まで掘り割った。その落口の塩浜がいたんだため堤を築き、出来たのがこの新田である。稻荷社は正徳5年の創建と伝えられる。

# コース4 新田開発と神社めぐり



コース  
4

# 散策ガイド

## 1 青峯山観音

青峯山観音菩薩像は、南区の村々が海に面していたころ、舟が出入りする舟江付近や新田の堤防上などに幾つも祀られていた。青峯山とは三重県鳥羽市にある正福寺の山号で、御本尊は十一面観音菩薩である。海の安全を祈願し水難防止として人々に崇拜されてきた。現在は、神社や寺院に移されているものが多い。

## 2 忠次稲荷神社

忠治新田は、熱田神宮神官田島肥後が着工したが失敗、のち熱田田中町井上忠治(忠次郎との説有り)が譲り受け、享保20年(1735)完成了。境内には、忠治の子孫から滝定助、春日井丈右衛門の両名がこの土地を譲り受けたときの献燈があり、昭和の初め奉納された燈籠の台石に、当時の小作人60人の名前が刻まれている。

## 3 戸部下新田の郷土碑

神明社境内には戸部下新田開発以来の歩みを刻んだ碑が建っている。戸部下新田は、元禄11年(1698)山崎村理兵衛はじめ4人が共同で開発に着手したが、高潮などで堤防が決壊し、その後大野屋嘉兵衛に譲渡され、享保13年(1728)完成了。古図によると、新田北の堤防沿いに「御川」と描かれている。ここは尾張の殿様がカモ猟をした場所だと伝えられる。



## 4 御替地神明社

道徳新田は寛保元年(1741)尾張藩により開発された。別名「御替地新田」という。以前天白川の流れを山崎川へ合流させたところ、たびたび決壊したため、もとの流れにもどした。このとき天白川の新田を取りつぶし、その替地として造られたので、この名がついた。神明社は、新田開発の翌年の創建と伝えられる。境内の竜神社には、空冂作の竜神像が祀られており、像の背に「氏子の願により、安永九年七月、荒子観音よりお迎えした」と墨書きされている。なお、現在は市博物館に寄託されている。また、新田の歴史を刻んだ碑がある。

## 5 道徳稲荷社

道徳前新田が文政4年(1821)に完成し、農民の守護神として創建された。境内には海上守護のため、堤防上に祀られていた青峯山観音像があつたが、戦災で消滅し、昭和37年(1962)に新たな観音像が建立された。



## 6 長三郎新田の郷土碑

神明社の境内には、新田開発の歴史などを刻んだ碑が建っている。この新田は熱田伝馬役人が元禄9年(1696)に、熱田宿駅伝馬の助成を目的に開発したが、のち熱田材木町江戸屋長三郎が譲り受けたため、その名で呼ばれるようになった。寛政5年(1793)に描かれた新田古図には「家数十九軒、人数九十四人」とある。

## 7 紀左衛門神社

寛政6年(1794)の創建と伝えられ、境内の白竜社には、区内の新田村にはめずらしい役行者像や庚申信仰を現わす庚申塚の碑などがある。それぞれ新田堤防上や水門付近にあったものをここに移した。この地は紀左衛門新田といい、宝暦4年(1754)熱田の加藤紀左衛門が開発し、のち徳川家の所有となった。

## 8 氷室長冬開墾地の碑

安政3年(1856)名古屋若宮八幡社の神官氷室長冬が旧山崎川跡を新田開発した。砂の多い川跡の水田化は困難な作業で、40年間無年貢だった。若宮八幡社境内に「氷室長冬開墾地」の碑があり、碑裏に協力した10人の名前が刻まれている。なお、入植者は津島・十四山・立田・荒子方面の人である。

## 9 道徳公園

区内で最も古い公園で、昭和6年(1931)頃から道徳公園として開放されていたが、ボート池・鯨池などの公園施設を整え、昭和16年(1941)に完成した。この一帯は新田の払い下げのあと区画整理され、知多街道の脇道である道徳銀座通は美しい通りとして大須観音通などとともに知られていた。現在の小・中学校の敷地には、かつて映画撮影所・ボクシングジム・馬場などがあって、にぎわいをみせていた。

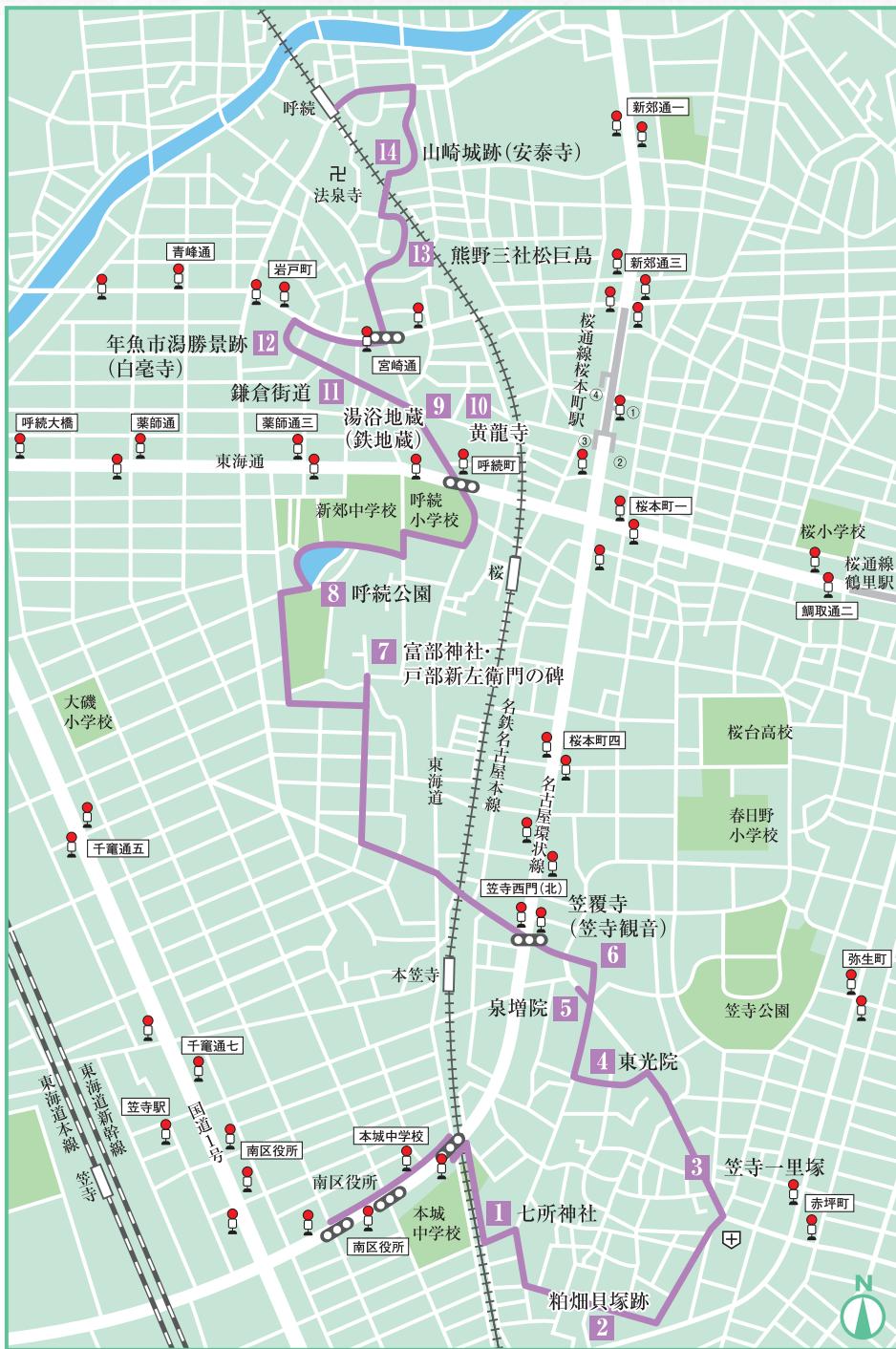
また、令和5年(2023)には、公園内のものとしては日本最大規模となるバスケットボールパークがリニューアルオープンした。アーティスト鷲尾友公さんが手がけたスポーツウォールを背にして、多くの若者がバスケットボールを楽しみ、賑わいのある魅力的な空間となっている。

## 鷲尾善吉翁頌徳碑

道徳前新田は、文政4年(1821)海西郡塩田村(現在の愛西市塩田町)の豪農鷲尾善吉が開発した。のち尾張藩御小納戸の所有となり、区内で最も広い面積の新田となった。道徳公園内に建っている碑には、開発当時から大正14年(1925)の新田開放までの歴史が、そして碑裏には、開発直後この地に移住した42人の氏名が刻まれている。



**コース  
5 東海道周辺めぐり**



コース  
5

# 散策ガイド

## 1 七所神社

祭神に日本武尊、須佐之男尊、宇賀御魂尊、天穗日尊、天忍穗耳尊、宮賣媛命、乎止命の七柱を祀っていることから、七所神社といわれている。天慶3年(940)平将門降伏祈願のために、熱田の宮の神々を勧請したと伝えられている。また境内には、昔から熱田神樂の正統を継承してきた神楽師の碑がある。平成30年(2018)、本殿が文化財保護法に基づく「登録有形文化財」に登録された。

## 2 粕貝塚跡

縄文早期末(約7000年前)の貝塚である。ハイガイが主体でイノシシ、シカの骨角のほか石錘、石鏃、石匙など石器が出土した。中でも食物繊維を含んだ尖底の深鉢が出土し、「粕畠式土器」として知られている。また、ここは笠覆寺の発祥地といわれ、「元觀音」と呼ばれている。

## 3 笠寺一里塚

慶長9年(1604)徳川幕府が主要街道を整備したとき、一里(約4km)ごとに塚を築き、その上に木を植えて道しるべとした。この一里塚は市内に残存する唯一のもので、土を盛った上にエノキが大樹となって残り東海道をしのぶにふさわしい。かつては、一対の塚であった。他の一基はムクノキが植わり、道を隔てた南側に大正時代まで残っていた。



## 4 東光院

笠覆寺十二坊の一つとして創建。本堂は江戸中期の建立である。当院には、星崎城主山口重勝の所持品であった天満天神菅原道真の肖像画、別名「出世お神酒天神」のほか、宮本武蔵が滯在中に左右両腕で書き分けた「南無天満大自在天神」の掛軸、武蔵の「肖像画」、武蔵自作の「木刀」が所蔵されている。



## 5 泉増院

笠覆寺十二坊の一つとして創建。玉照姫の像が安置されている。玉照姫は風雨にさらされていた観音様に、自分の笠をかぶせてあげたことが縁で、藤原兼平の夫人になった女性である。延長8年(930)に兼平は伽藍を建立して笠覆寺と名付け、田畠数十町歩を寄進し、今の笠覆寺の基を開いた。

## 6 笠覆寺(笠寺觀音)

尾張四觀音の一つ。元は小松寺といわれ、天平5年(733)に僧禪光が開いて十一面觀音を安置。その後荒廃し、延長8年(930)に藤原兼平がこの地に復興し笠覆寺と名付けた。

また、嘉禎4年(1238)僧阿願が再建した。本堂は宝暦13年(1763)の建造。当寺には、国の重要文化財「色紙墨書妙法蓮華經第五」をはじめとして、県指定文化財の「笠覆寺文書」、「梵鐘」、「十一面觀音菩薩立像」、「銅造十一面觀世音並びに六稟式厨子及び古甕四耳壺高力種信筆出現縁起二張」などがある。「本堂」、「多宝塔」、「仁王門」、「鐘樓」が、平成29年(2017)市指定文化財に指定された。また境内には、芭蕉句碑(笠寺千鳥塚「星崎の闇を見よとや嗜千鳥」・春雨塚「笠寺やもらぬ岩屋も春の雨」)、宮本武蔵の碑、切支丹燈籠(織部燈籠)、愛智塚などの史跡や文化財が多数ある。



## 7 富部神社・戸部新左衛門の碑

別名「蛇毒神社」、「戸部天王」ともいう。慶長8年(1603)清洲城主松平忠吉が西方にあった祠を現在地に移し慶長11年(1606)本殿、祭文殿、回廊、拝殿を建てたと伝えられる。本殿は一間社流造(ひわなふき)正面の柱間が一間(柱2本)、屋根は檜皮葺、正面の臺股(横木、枑)に設置し荷重を分散して支えるため下側が広い部材、そのシリエットが蛙の股様に見える)、屋根の懸魚や桁隠しはよく桃山様式を伝え国的重要文化財に指定されている。当社は神宮寺として天福寺をもち、社領百石を有し尾張藩主の崇敬も篤く格式があったと伝えられる。また、境内の山車蔵にある享保12年(1727)作の高砂車山車は、市指定有形民俗文化財に指定されている。

戸部新左衛門政直は戦国時代の戸部城主であり、織田信長の計略にかかり三河吉田(現在の豊橋市)で今川義元に殺害された。その靈を祀って城跡に碑が建てられた。昭和4年(1929)に戸部町3丁目に移設、町内等の人達により管理されていたが、平成28年(2016)4月に富部神社に移築された。戸部城は別名松本城または笠寺城ともいわれ、西、南は高さ十数mもある崖で、東西30m、南北約180mであった。昭和4年の区画整理で削平され痕跡をとどめていない。



コース  
5

# 散策ガイド

## 8 呼続公園

公園を中心とした一帯は、縄文晩期から中世までの曾池遺跡である。住居、井戸の遺構や縄文から各時代の土器類および木器や宋銭などの出土品があり、人々が永く居住した場所であったことがうかがえる。中でも漁具、船の一部など漁に関係のあるものがあり、この近くが海であった証であろう。いまは、区の代表的な公園で、野球場には夜間照明、曾池には噴水があるなど、潤いと緑にあふれる憩いの場である。



## 9 湯浴地蔵(鉄地蔵)

地蔵院に安置され、鎌倉時代のころに鋳造されたと伝えられる、高さ2.3mのめずらしい坐像である。「湯浴」とは、人びとが湯を浴びせ祈願したことによる。戦災と伊勢湾台風の被害にあり、今では仏頭と両掌だけが旧形をとどめている。

## 10 黄龍寺

創建は応仁2年(1468)で、龍玄寺といわれた。宝暦8年(1758)寺号を黄龍寺と改めた。当寺が所蔵する菅原道真の真筆画像は熱田の誓願寺から遷座したといわれ、その由来記が『尾張徇行記』にある。現在の山門と寄棟造りの本堂・禅堂は、明和4年(1767)に再建されたものである。

## 11 鎌倉街道

鎌倉に幕府ができる、京から鎌倉へ通じる道が開かれたが、南区内のルートを大別すると上の道、中の道、下の道の三経路があったといわれる。中の道は白毫寺-地蔵院-黄龍寺-村上社-古鳴海であり、白毫寺北側から東進して東海道を横切り、地蔵院、黄龍寺の前を通り、名鉄名古屋本線あたりまでが、昔のおもかげを残している。

## 12 年魚市潟勝景跡(白毫寺)

白毫寺は元龟2年(1571)の創建と伝えられる。昔、このあたりは、あゆち潟、知多の浦を望む勝景の地であって、万葉歌人などが歌に詠んだ所である。「年魚市潟」展望地として、昭和48年(1973)名古屋市の名勝に指定された。「あゆち」は「あいち」に転じ県名の語源となった。また、源頼朝が京都へのぼる途中、ここに休んだので棧敷山ともいわれる。境内には、勝景跡の碑や歌碑、芭蕉句碑などが点在している。



## 13 熊野三社松巨島

永禄年間(1558~1570)に山崎城主佐久間信盛が守護神とした社を、寛永4年(1627)に山崎村の氏神としてこの地に移した。社務所中庭には、大きな字で「松巨嶋」背面には「明和三丙戌歳(1766)……」と彫られた手洗鉢がある。松巨島とは、熱田方面から眺めると、この一帯が「松の大島」に見えたことから、この地名が伝えられている。

## 14 山崎城跡(安泰寺)

現在の安泰寺境内にあたる場所と伝えられ、この地は旧称、山崎宇羽城と呼ばれていた。城主は蔵人淨盤、次に加藤弥三郎、最後に佐久間信盛であった。安泰寺は、山崎城の廃城後に桜の宝珠庵が移ってきて宝珠山安泰寺となった。